

もくじ -CONTENTS-

◆今月の表紙

推定樹齢1000年の大ヒノキ。10月に行われる伊勢神宮式年遷宮御用材が搬出された木曾ヒノキ備林に立つ、威厳と風格を備えた名木です。

◆特集

- 02 「域学連携」で地域活力の創出を  
中津川市長 青山節児
- 04 岐阜サマーサイエンススクール
- 05 国際交流による人づくり
- 27 外来生物の駆除

◆インフォメーション

- 06 お知らせ/募集/相談 ほか
- 18 俳壇歌壇
- 20 市議会だより
- 24 市内のできごと

◆連載

- 16 地域づくりがんばっています  
博物館だより
- 17 図書館だより
- 19 健康なかつがわ 21
- 23 リニア中央新幹線 ④
- 28 ふるさと再発見  
きらり☆なかつがわ

◆市民カレンダー

- 14 ごみ/夜間・休日当番医 ほか
- 26 市民相談日

人の動き (4月末現在・外国人を含む)

人口	82,512 人	(+125 人)
男	40,018 人	(+84 人)
女	42,494 人	(+41 人)
世帯数	29,618 世帯	(+134 世帯)
		( ) 内は前月比

「域学連携」で地域活力の創出を

中津川市長 青山節児



中津川市のまちづくりには人材の育成が最も大切だと考えています。

このほど総務省の「域学連携」地域活力創出モデル実証事業で全国4カ所のひとつとして中津川市加子母地域が採択されました。この事業は、参加する大学の学生が1カ月程度、モデルとなる地域に滞在し、地域と交流しながら調査や研究、各大学の研究テーマに取り組み中で、地域の課題を発見し、地域づくりのための提言や実践を行っていくものです。学生た

ちの活動そのものと、提言などが地域の活性化や新たな地域資源の発掘、産業創出や観光振興などにつながるものと期待しています。また、市では今年2月に地元の中京学院大学と産業・文化・教育などの分野で相互に協力し地域発展と人材育成を目的とした「連携包括協定」を締結し、4月には域学連携の窓口として市民協働課を新設しました。今後は、市全体が学生たちのキャンパスとなり、市内全域に域学連携の取り組みを波及させ、市民の活性化につなげてまいります。また、市では今年2月に地元の中京学院大学と産業・文化・教育などの分野で相互に協力し地域発展と人材育成を目的とした「連携包括協定」を締結し、4月には域学連携の窓口として市民協働課を新設しました。

6月の主な催しと会議日程

日	曜日	項目	お問い合わせ
2	日	★ 六斎市 (P.25 をご覧ください)	
5	水	☆ 農業委員会 <b>市役所</b> 14:00～	農業委員会 (☎内線 268)
9	日	★ 市内一斉清掃 (P.6 をご覧ください)	
11	火	☆ 市議会本会議 (一般質問) <b>市役所</b> 10:00～	議会事務局 (☎内線 503)
12	水	☆ 市議会本会議 (一般質問) <b>市役所</b> 10:00～	議会事務局 (☎内線 503)
15	土	★ ファーマーズマーケット ふるさとにぎわい広場 9:00～12:00	農業振興課 (☎内線 239)
23	日	★ 消防操法大会 (P.9 をご覧ください)	
25	火	☆ 市議会本会議 (最終日) <b>市役所</b> 10:00～	議会事務局 (☎内線 503)
26	水	☆ 教育委員会 <b>にぎわい</b> 13:30～	教育企画課 (☎内線 4211)

★ イベントや催し ☆ 議会や委員会などを傍聴できます。(日時は変更になる場合があります。事前にお問い合わせください)  
**市役所** 市役所本庁舎 **にぎわい** にぎわいプラザ

「域学連携」地域活力創出モデル実証事業

学生力を生かした地域と人づくり

域学連携とは  
地域と大学が協力し合うこと

大学生と大学教員が地域の現場に入り、住民とともに地域の課題解決や地域づくりに継続的に取り組みます。学生のもつ感性や行動力、大学教員の知識や経験を生かし、地域の活性化や人材育成へとつなげます。

加子母を舞台に  
調査・研究とテーマの実践

加子母でこれまで営んできた森づくり、木づかいの伝統や技を、木造建築実習を通して学びます。また、芝居小屋・明治座では、舞台芸術を学ぶ学生が地歌舞伎役者や裏方に交じって道具の製作や照明を担当します。このほか加子母の農林業や地域文化の継承などの研究にも取り組みます。

地域と大学にとってのメリット

- 《地域のメリット》
  - ・大学に集積する知識やノウハウを生かす
  - ・不足する若い人材を活用
  - ・地域の活性化
- ・学生や地域住民の人材育成

《大学のメリット》

- ・実践の場が得られる
- ・教育、研究活動へのフィードバック

全国から  
3000人の学生が参加します

この事業には東洋大学・日本福祉大学・名古屋工業大学・愛知学院大学・名城大学・京都大学・立命館大学・京都造形大学・武蔵野美術大学・東洋美術学校などの学生が参加します。



問 市民協働課 (☎内線209)

地域の現状

人口減少、少子高齢化、林業の衰退、商店がなくなる



描くすがた

いつも学生が滞在している、学生が調査・研究に訪れている、学生が地域づくりに参加している



地域への波及

学生滞在による経済効果、高齢化社会支援、地域文化の継承、若者の定住・定着、ビジネスの起業



中京学院大学との連携も強化します

中京学院大学とは、これまでもおいでん祭への参加や期日前投票事務への従事などで「域学連携」を行ってきました。今後も中学校の部活動へのコーチ派遣など、同大学の特色ある強みを生かした連携をさらに進めていきます。

【写真】六斎市への参加 (5月5日)

中国人留学生による本場の水餃子とニラ餅や、「とりトマ丼」の店を出店しました。